

地理学 ▶ 情報システム学

研究機関研究員 ▶ 大学教員

## 「文魂理才」のキャリア形成とワークライフバランス

山本佳世子 (電気通信大学大学院情報システム学研究所 准教授)

## 仕事の内容とやりがい

私の研究には、社会の実問題を主対象として、情報システムを利用して解決を目指すという複合領域としての大きな特徴があります。たとえば、GIS (地理情報システム) を利用して、土地利用・空間利用計画の評価、環境情報の解析評価を行った研究、情報提供・共有化システムや意思決定支援システムを開発する研究があります。また市民参加、NPO/NGOなどの社会活動、市民意識や行動、企業の環境活動に関する研究も行っています。自分の研究成果をもとに、社会に対して提言を行う点、学校教育や社会活動の支援を行う点において、興味深さとやりがいを強く感じます。

## 仕事と生活のバランス

これまでの勤務先では、たいへん興味深い研究対象に次々と出会うことができ、研究者としてとても幸せな状況が続いているのではないかと思います。私の専門分野の性格上、しばしばフィールドワークにも出かけるのですが、研究(ヒアリング調査や資料収集)と趣味(旅行)が両立しているように思えますし、家族や友人達からも同じことをよく指摘されています。私は歴史にも関心がありますので、フィールドワークを行う地域の歴史についても趣味として学び、ここからワークライフバランスについて考えてみたいと思います。

## 進路決定のきっかけ

高校までは数学と社会が好きでしたが、社会問題への関心もありましたので、人や社会と深く関わる仕事に就きたいと漠然と思っていた。私が研究者を目指すきっかけとなったのは、学部3年生の時にE・ハーワード(イギリス)の「田園都市論」に出会ったことでした。これを契機として、都市・地域計画、環境科学についてさらに学びたいと思ったのです。また私の大学院進学時は情報化が飛躍的に進んだ時期でもありますので、情報システムと人や社会とのつながりにも関心を持ち、上記の専門分野におけるGISやICTを利用した研究に取り組み始めました。

## 進路選択に対するメッセージ

私の専門分野は、社会科学と情報システム学の複合領域に該当するとともに、ちょうど理系と文系の境界に位置しています。大学院時代の恩師からは、「文魂理才(本来は文系の研究者が対象としてきた研究テーマに、理系独自のアプローチで取り組む)」というお言葉をいただいたことがあります。高校までに不得意科目があまりなく、理系にも文系にも興味があり、進路選択に迷う場合には、理系と文系の境界に位置する学問分野も、選択肢の1つとしてぜひ考えてみてください。

## 海外留学・勤務を通じて得たこと・得したこと

私には長期の海外留学・勤務の経験は残念ながらありませんが、国内外での国際会議や海外の大学・研究機関の訪問などによる数週間程度の国際経験はありますので、そのことについて書いてみたいと思います。最も印象深い経験は、私の専門分野では研究の背景として各国の持つ社会問題がありますので、研究テーマの設定や研究方法が各国でかなり異なっていることが明確にわかったことです。また食事やティータイムの時に、1つのテーマを取り上げて、各国の状況をそれぞれ示しながら議論をしたことも、とても興味深い思い出です。

## 海外の女性研究者の活躍と位置づけについて感じたこと

2011年度に第8回「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)」に、若手科学者代表(Future Leader 2011)に日本から選出され、参加いたしました。世界各地の研究者と交流するとともに、同年代の研究者の方々と科学技術について議論することができ、貴重な経験をすることができました。そのときに、各国の女性研究者の方々と、女性研究者の地位や活動について話し合ったことがあります。女性研究者の位置づけは各国で大きな相違があることがわかり、女性研究者の国境を越えた連携や情報交換の必要性、ジェンダーに関わりなく女性研究者が活躍できる土壌の重要性を認識しました。



STSフォーラム(2011年11月)

## 滞在先の思い出・生活者としての体験

特に環境をテーマとした国際会議では、諸外国の研究者と活発に議論を重ねるにつれて、研究自体についての価値観の相違を強く実感することがありました。これは、各国の置かれた国際社会での位置、経済の状態などに一部は起因するものだと思いますが、人口爆発、食糧、医療、貧困、民族に関する問題が環境問題よりも優先する国々があることを深く認識できる良い機会でもありました。また諸外国の研究者が日本について意見を述べるときには、自分の母国日本を客観的に見ることができました。



&lt;山本佳世子(やまもとかよこ)プロフィール&gt;

香川県立高松高校→お茶の水女子大学文教育学部地理学科・大学院人文科学研究科地理学専攻(修士課程)→東京工業大学大学院理工学研究科社会学専攻(博士課程)

1998年-2004年 滋賀県琵琶湖研究所研究員

2004年-2006年 名古屋産業大学環境情報ビジネス学部助教

2006年10月より現職